動くな、マリサ！そこに引きずり込まれたら——お前も血に染まる！

幻視聴覚システム上映
ULTRAVISUAL

アリゲーター

TOHO-TOWA Presents a Robert S.Bremson Production
ALLIGATOR

誰でも・12回は・必ず・飛びあがります。

ロバート・フォースター ロビン・ライカー
マイケル・ガッゾ ティーン・ジャガー ヘンリー・シルバ
製作ブランドン・チェイス 監督ルイス・ティーグ
脚本ジョン・セイルズ 撮影ジョセフ・マンジン
音楽クレイク・ハンドリー

TOWA カラー作品 アメリカ映画 東宝東和提供

※お得な特別観賞券1,200円（一般1,500円/学生1,300円の処）劇場窓口にて発売中！

4月25日(土)より《戦慄》のロードショー！

歌舞伎町
新宿オデヲン座 (202) 5657

カラー作品/アメリカ映画
東宝東和提供

アリゲーター

ALLIGATOR

そこに引きずり込まれたら——最後だ！

大都会に潜む恐怖！
しかし、これが現実だ!!

全米をかつてない衝撃に突き落として襲いかかる、巨大なショック映画「アリゲーター」がいよいよ日本上陸だ！アメリカで大ヒットを記録し、'75「ジョーズ」、'76「オーメン」'77「サスペリア」……そして81年。前代未聞の新しい《ショック》が誕生した。

恐怖はいつも人々の視線の届かない場所で不気味に用意されている。そしてそれは、いつも意外な方角からやってくる。眼を射る鋭い映像、神経をズタズタに引き裂くショック・シーンの連続は「誰でも12回は必ず飛びあがる」という保証付き。この出来事を信じなくても——これが現実なのだ！

幻視聴覚システム
《ULTRAVISUAL》とは？

この作品には、かつてのショック映画にはない新しい〝仕掛け〟が用意されている。画面から迫りくる映像の怖しさだけでなく、人間の耳では感じとれない周波数で恐怖心を刺激する音が発せられているという。さらに、テレビや映画では禁止されている「サブライミナル・カット（潜在カット）」が行なわれているという噂もあるのだ。これは、カットとカットの間にごくわずかな映像を入れ、人間の潜在意識の中にその画面を焼きつけるというものである。そうすることによって一種の幻想を引き起こして、さらに強く恐怖心を増幅させようとするものである。

この映画を製作したグループ・ワン・フィルムズは、その件に関してのコメントを避けている。しかし上映劇場に対して「上映後、すぐには観客を場外に出さないように」と要請を出したという。

失神者が続出!!
戦慄が走る12大ショック!!

前兆 1968年、フロリダで行なわれた異様な突発事故が発生。死者1名。そのときマリサ12才。まだ何も知らない……。

異変 1980年4月14日、下水処理場にバラバラになった人間の手、足が流れつく。マリサは学者として成長したが、何も気づいていない。

亀裂 翌4月15日、下水溝を捜査中の警官隊が消息を絶つ。マリサの研究室で不吉な出来事が続発。

目撃 4月21日、新聞記者が惨殺される。残されたカメラにこの世のものとは思えない異形の物体が写っていた……。

血と死の匂い 4月27日、市警、州軍隊による大掃討作戦開始。同じ頃、マリサの研究室の実験動物が騒ぎ出す。

死角 4月29日、ついに恐怖は下水溝から地上へ。野球に興じる少年たちをえじきに——。死者2名。

腐敗 同日夜、警備にあたるパトカー襲撃される。警官1名殉職。独自の調査をするマリサ、下水溝で意外な事実に遭遇。

殺りく 5月2日、家庭のプールに遊ぶ少年が突如行方不明となる。

真相 5月11日、追撃する名ハンターのブロック大佐が逆襲に会い、惨殺される。マリサ、ついに真相をつかむ。

閃光 5月20日、運河を捜査中のボートが転覆。SWAT隊員が両足を失う。

復讐 5月27日、郊外のパーティー会場に出現。車を叩きつぶすなど血と悲鳴の狂宴と化す。死傷者16名。マリサ、闘いを決意する。

対決 5月30日、死闘。そして、マリサに意外な敵が……。